

論 文 内 容 要 旨

題 目

Impact of the use of Kampo medicine in patients with esophageal cancer during chemotherapy:  
a clinical trial for oral hygiene and oral condition

(食道がん化学療法患者における漢方薬使用の効果：口腔衛生および口腔内状態に関する臨床研究)

著 者

森山 聡美

内容要旨

目的：がんは先進国において最も死亡率の高い疾患である。がん治療における放射線療法や化学療法は、様々な有害事象を引き起こす。口腔粘膜炎は放射線療法や化学療法中の患者 40~80%に発現し、その痛みは患者の栄養や会話、嚥下に大きく影響を及ぼし治療の遂行を妨げるばかりではなく、患者の QOL の低下にも繋がる。近年の基礎研究において口腔上皮細胞や歯周病原細菌における漢方薬の抗菌・抗炎症作用が確認されつつある。本研究では、食道がん化学療法患者に対する有害事象としての口腔粘膜炎、さらには舌苔細菌および歯肉の状態に対する漢方薬応用の有用性を明らかにすることを目的とした。

方法：徳島大学病院食道・乳腺甲状腺外科で DFP 療法を行った食道がん患者のうち、本研究への同意を得られた 24 名を無作為に、コントロール群、大黄甘草湯群、半夏瀉心湯群に分けた。漢方摂取群では 1 日 3 回漢方シャーベットを摂取させた。口腔粘膜炎 Grade の最高値、Grade 3 以上の口腔粘膜炎発症の有無、Plaque Index、Gingival Index、Tongue Coating Index および口腔乾燥度について評価した。舌苔中の総細菌数、*Porphyromonas gingivalis*, *Fusobacterium nucleatum*, *Campylobacter rectus* 菌数はリアルタイム PCR の手法にて測定した。また、全ての群に対して、週 1 回の専門的口腔ケアを実施した。なお、本研究は徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会の承認を得た（承認番号：1920）。

結果：コントロール群、大黄甘草湯群および半夏瀉心湯群の 3 群間において、重症口腔粘膜炎発症での有意な差は認められなかった。しかしながら、大黄甘草湯群は *F. nucleatum*、*C. rectus* の歯周病関連細菌に作用し、観察期間中に有意に細菌数を減少させることが示された。さらに大黄甘草湯は察期間中に有意に歯肉の炎症を軽減する効果が示された。

結論：臨床試験の結果から、大黄甘草湯が食道がん化学療法患者の歯肉の炎症を軽減し、歯周病原性細菌の減少に有効である可能性が示唆された。